別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項		記　入　欄							備　考
計画の区分		学部の設置							
フリガナ 設置者		ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ｵｵｻｶｱｵﾔﾏｶﾞｸｴﾝ 学校法人　大阪青山学園							
フリガナ 大学の名称		ｵｵｻｶｱｵﾔﾏﾀﾞｲｶﾞｸ 大阪青山大学（Osaka　Aoyama　University）							
大学本部の位置		大阪府箕面市新稲2丁目11番1号							
大学の目的		教育基本法の精神及び学校教育法の規定に則り、学術の中心として深く真理を探究するとともに、わが国の文化と伝統に基づいた感性、知性、倫理性及び創造性を備えた個性豊かな教養人を育成し、もって広く社会に貢献することを目的とする。							
新設学部等の目的		高い知性と学識豊かな情操を兼ね備え、子どもの心身の成長・発達を理解・支援でき、子ども・家庭をめぐる今日的な社会的諸問題に対応できる専門的職業人を養成する。 専門的職業人として、子どもの育ちを多面的・複合的に捉える豊かな学識と，現実の諸課題を踏まえた子どもの心と体の健全な育成を支える省察的な実践力を形成すると共に，地域社会に深く貢献する力を養う。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	子ども教育学部 [Faculty of child education] 子ども教育学科 [Department of child education]	年 4	人 80	年次人 3年次 10	人 340	学士 （子ども教育学） 【Bachelor of child education】	年　月 第　年次 令和4年4月 第1年次 令和6年4月 第3年次	大阪府箕面市新稲2丁目11番1号	
	計		80	10	340				
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）		○学生募集停止 大阪青山大学短期大学部 調理製菓学科（廃止）　（△60名） ※令和2年4月学生募集停止 大阪青山大学健康科学部 子ども教育学科（廃止）（△80名） （3年次編入学定員）　（△10名） ※令和4年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は令和6年4月学生募集停止）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	子ども教育学部 子ども教育学科	７２科目	５４科目	８科目	１３４科目	１２４単位			

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	子ども教育学部　子ども教育学科	7人 (7)	8人 (8)	0人 (0)	1人 (1)	16 人 (16)	0人 (0)	43人 (43)
		計	7 (7)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	ー (ー)
	既設分	健康科学部　健康栄養学科	10 (10)	5 (5)	6 (6)	2 (2)	23 (23)	0 (0)	11 (11)
		健康科学部　看護学科	10 (10)	7 (7)	6 (6)	9 (9)	32 (32)	5 (5)	20 (20)
		共通教育センター	3 (3)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		計	23 (23)	12 (12)	13 (13)	12 (12)	60 (60)	5 (5)	ー (ー)
	合計		30 (30)	20 (20)	13 (13)	13 (13)	76 (76)	5 (5)	ー (ー)

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
	事務職員	39 人 (39)	21 人 (21)	60 人 (60)
	技術職員	0 0	0 0	0 0
	図書館専門職員	2 (2)	4 (4)	6 (6)
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計	41 (41)	25 (25)	66 (66)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	26,224.00㎡	ー ㎡	ー ㎡	26,224.00㎡	
	運動場用地	20,668.21㎡	ー ㎡	ー ㎡	20,668.21㎡	
	小計	46,892.21㎡	ー ㎡	ー ㎡	46,892.21㎡	
	その他	68,519.60㎡	ー ㎡	ー ㎡	68,519.60㎡	
	合計	115,411.81㎡	ー ㎡	ー ㎡	115,411.81㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	27,047.15㎡ (27,047.15㎡)	ー ㎡ (ー ㎡)	ー ㎡ (ー ㎡)	27,047.15㎡ (27,047.15㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	３５室	１４室	２４室	３室 （補助職員　１人）	ー 室 （補助職員　ー人）	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	子ども教育学部	16 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分
	子ども教育学部	11,336〔376 〕 (10,936〔336〕)	55〔11 〕 (35〔7〕)	0〔0〕 (0〔 0〕)	183 (175)	857 (777)	15 (15)	図書　60,000冊 学術雑誌　434種 電子ｼﾞｬｰﾅﾙ 13種 視聴覚資料　915種
	計	11,336〔376 〕 (10,936〔336〕)	55〔11 〕 (35〔7〕)	0〔0〕 (0〔 0〕)	183 (175)	857 (777)	15 (15)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	1,157.46㎡	211	60,000冊	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	2,801.06㎡	テニスコート（４面）	

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		320千円	320千円	320千円	320千円	― 千円	― 千円	届出学部全体
	共同研究費等		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	― 千円	― 千円	
	図書購入費		300千円	300千円	300千円	300千円			
	設備購入費	5,000千円	2,000千円	2,000千円	1,000千円	1,000千円			

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1310千円	1080千円	1080千円	1080千円	― 千円	― 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、雑収入

既設大学等の状況	大学の名称	大阪青山大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	健康科学部						0.95	平成17年度	大阪府箕面市新稲2丁目11番1号	
	健康栄養学科	4	80		320	学士	0.86	平成17年度		
	子ども教育学科	4	80	3年次 10	340	学士	0.94	平成20年度		令和4年度より学生募集停止（3年次編入学は令和6年度より学生募集停止）
	看護学科	4	80		320	学士	1.08	平成27年度		
	短期大学部	2	ー		ー	短期大学士	ー	平成26年度		大阪青山短期大学（昭和42年度設置）を名称変更令和2年度より学生募集停止

附属施設の概要	名　称：大阪青山歴史文学博物館 目　的：学園における教育研究に資する 所在地：兵庫県川西市長尾町10-1 規模等：土地 960㎡、建物 2,434.51㎡（地下1階付6階建）

学校法人　大阪青山学園　　設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学定員	編入定員	収容定員
大阪青山大学			
健康科学部			
健康栄養学科	80	0	320
		3年次	
子ども教育学科	80	10	340
看護学科	80	0	320
計	240	10	980

令和4年度	入学定員	編入定員	収容定員	変更の事由
大阪青山大学				
健康科学部				
健康栄養学科	80	0	320	
	0	10	0	令和4年4月学生募集停止
看護学科	80	0	320	
子ども教育学部				学部の設置(届出)
		3年次		
子ども教育学科	80	10	340	
計	240	10	980	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格A４縦型）

教育課程等の概要

（子ども教育学部　子ども教育学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	教育と福祉	１後	2			○			1					兼1	オムニバス・共同（一部）
	食と健康	１前		2		○								兼1	
	日本語Ⅰ	１前	2			○								兼3	共同
	日本語Ⅱ	１後		2		○								兼1	
	実用書道	１後		1			○							兼1	
	生物学	１後		2		○								兼1	
	地球環境論	１後		2		○			1						
	統計学	２前		2		○								兼1	
	心理学	１前		2		○			1						
	コミュニケーション論	１後		2		○								兼1	
	プレゼンテーション概論	１後		2		○								兼1	
	プレゼンテーション演習	２後		1			○							兼1	
	キャリアデザイン	１前	1				○		7	7		1		兼1	共同
	ボランティア論	１前		2		○			1						
	伝統文化に学ぶ	１後	1			○								兼1	
	多文化共生論	１後		2		○								兼1	
	学修基礎演習	１前		2			○		1	2				兼1	共同
	日本国憲法	１後	2			○								兼1	
	情報処理	１前	2			○								兼1	
	情報リテラシーⅠ	１後		2		○								兼1	
	情報リテラシーⅡ	２前		2		○								兼1	
	基礎英語Ⅰ	１前	1				○							兼3	共同
	基礎英語Ⅱ	１後	1				○							兼3	共同
	体育講義	１前	1			○			1	1					共同
	体育実技	１前	1					○	1	1					共同
	小計（２５科目）	－	14	28	0	－			7	7	0	1	0	兼15	－
専門基礎科目	健康子ども学基礎ゼミナール	１後	2				○		7	7		1		兼1	共同
	健康子ども学Ⅰ	１前	2			○			1						
	健康子ども学Ⅱ	４前		2		○			1						
	子どもの健康と生活	１後		2		○			1	1					共同
	教育原理	２前	2			○								兼1	
	保育原理	１後	2			○				1					
	教育心理学	１後	2			○			1						
	保育の心理学	１前	2			○			1						
	子どもの人権	３後	2			○				1					
	子ども文化論	１後		2		○				1					
	子ども社会論	２前		2		○								兼1	
	子どもと英語Ⅰ	３前		2			○							兼1	
	子どもと英語Ⅱ	３後		2			○							兼1	
	基礎音楽Ⅰ	１前	1				○		1						
	基礎音楽Ⅱ	１後	1				○			1					
	器楽Ⅰ	１前	1				○		1					兼7	共同
	造形	１後	1				○			1					
	小計（１７科目）	－	18	12	0	－			7	8	0	1	0	兼11	－

専門教育科目	こころとからだの健康	健康心理学	３後	2			○			2						オムニバス
		子ども家庭支援の心理学	２前		2		○			1						
		児童心理学	２後		2		○			1						
		カウンセリング演習	３前		1			○							兼1	
		教育相談	２前		2		○			1						
		臨床教育学	３前		2		○			1						
		臨床保育学	３後		2		○			1						
		子ども理解の理論と方法	４前		2			○		2						オムニバス
		食育論	２前	2			○								兼1	
		子どもの保健	２前	2			○								兼1	
		子どもの健康と安全	３前		1			○			1				兼1	オムニバス
		子どもの食と栄養	２後	2				○							兼1	
	子どもの福祉	社会福祉	１前	2			○				1					
		子ども家庭福祉	１後		2		○				1					
		子ども家庭支援論	２前		2		○				1					
		乳児保育Ⅰ	２前		2		○						1			
		乳児保育Ⅱ	２後		1			○					1			
		特別支援教育入門	２後		2		○				1					
		特別支援実践論	３前		2			○		1						
		社会的養護Ⅰ	２後	2			○			1						
		社会的養護Ⅱ	３前		1			○							兼1	
		子育て支援	３前		1			○							兼1	
		社会福祉行政論	４前		2		○				1					
		子どもと虐待	３後		2		○			1						
	教育及び保育の内容・方法	保育カリキュラム論	２後		2		○				1					
		保育者論	２後		2		○				1					
		子どもと健康	１後		2			○		1						
		子どもと人間関係	１前		2		○						1			
		子どもと環境	１前		2		○			1						
		子どもと言葉	１後		2			○							兼1	
		子どもと音楽表現	１後		2			○			1					
		保育内容総論	２前		1			○			1					
		保育内容・健康	２後		1			○		1						
		保育内容・人間関係Ⅰ	２後		1			○					1			
		保育内容・人間関係Ⅱ	３前		1			○					1			
		保育内容・環境Ⅰ	２前		1			○		1						
		保育内容・環境Ⅱ	３後		1			○		1						
		保育内容・言葉	２前		1			○							兼1	
		保育内容・音楽表現Ⅰ	２前		1			○		1	1				兼7	共同
		保育内容・音楽表現Ⅱ	３前		1			○		1	1				兼7	共同
		保育内容・身体表現	３前		1			○							兼1	
		保育内容・造形表現Ⅰ	３前		1			○							兼1	
		保育内容・造形表現Ⅱ	３後		1			○							兼1	
		声楽Ⅰ	２前	1				○			1					
		声楽Ⅱ	２後		1			○			1					
		器楽Ⅱ	１後	1				○		1					兼7	共同
		器楽Ⅲ	２後		1			○		1					兼6	共同
		器楽Ⅳ	３後		1			○		1					兼6	共同
		子どもの音楽総合Ⅰ	４前		1			○		1					兼5	オムニバス・共同（一部）
		子どもの音楽総合Ⅱ	４後		1			○		1	1				兼5	オムニバス・共同（一部）
		子ども体育Ⅰ	２前		1			○		1						
		子ども体育Ⅱ	２後		1			○		1						
		教育課程論	２後		2		○								兼1	
		教職論	２後		2		○								兼1	
		社会	２後		2		○				1					
		算数	２後		2		○			1						
		理科	２前		2		○			1						
		生活	２前		2		○			1						

専門教育科目	教育及び保育の内容・方法	家庭	２前		2		○								兼1	
		初等教科教育法（国語）	２前		2		○								兼1	
		初等教科教育法（社会）	３前		2		○				1					
		初等教科教育法（算数）	３前		2		○								兼1	
		初等教科教育法（理科）	２後		2		○			1						
		初等教科教育法（生活）	２後		2		○			1						
		初等教科教育法（音楽）	３前		2		○				1					
		初等教科教育法（図画工作）	３前		2		○								兼1	
		初等教科教育法（家庭）	２後		2		○								兼1	
		初等教科教育法（体育）	３前		2		○			1						
		初等教科教育法（英語）	３前		2		○								兼1	
		道徳教育の指導	３後		2		○								兼1	
		総合的な学習の時間の指導	３前		2		○								兼1	
		特別活動の指導	３前		2		○								兼1	
		生徒・進路指導論	４前		2		○				1					
		教育社会学	２後		2		○								兼1	
		教育方法・技術論	４前		2		○				1				兼1	オムニバス・共同（一部）
		児童文学	４前		2		○								兼1	
	実習・研究	保育実習ＩＡ	２後		2				○		1		1			共同
		保育実習指導ＩＡ	２後		1			○			1		1			共同
		保育実習ＩＢ	３前		2				○		1					
		保育実習指導ＩＢ	３前		1			○			1					
		保育実習Ⅱ	３後		2				○		1					
		保育実習指導Ⅱ	３後		1			○			1					
		保育実習Ⅲ	３前		2				○		1					
		保育実習指導Ⅲ	３前		1			○			1					
		教育実習Ⅰ	２前		1				○		1					
		教育実習Ⅱ	３後		3				○		2					共同
		教育実習事前事後指導	３通		1			○			3					共同
		教職実践演習（幼・小）	４後		2			○			2					オムニバス
		教職実践演習（幼・保）	４後		2			○			1		1			共同
		地域子育て支援実習	４通		2				○	1						
		健康子ども学専門ゼミナール	３後		2			○		7	7		1		兼1	共同
		卒業研究	４通		4			○		7	7		1		兼1	共同
		小計（９２科目）	－	14	141	0	－			7	7	0	1	0	兼32	－
合計（１３４科目）			－	46	181	0	－			7	8	0	1	0	兼43	－

学位又は称号	学士（子ども教育学）	学位又は学科の分野	教育学・保育学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基礎教育科目必修１４単位、専門基礎科目必修１８単位、専門教育科目必修１４単位、全科目区分の選択科目から７８単位以上を修得し、１２４単位以上を修得すること。	１学年の学期区分	２学期
※保育士資格取得希望者は、保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱの組合せ又は保育実習Ⅲ及び保育実習指導Ⅲのいずれかを選択必修。	1学期の授業時間	１５週
※幼稚園免許取得希望者は、教職実践演習（幼・小）又は教職実践演習（幼・保）のいずれかを選択必修。	1時限の授業時間	９０分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（子ども教育学部子ども教育学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	教育と福祉	子どもの健全な成長・発達には，乳幼児から学齢期，そして社会参加に至るまで，切れ目のない連続性のある支援体制を社会全体で考えていかねばならない。そのため，それぞれの役割への理解と支援の観点に関する情報共有を図る必要がある。本講義では，「教育とは」「福祉とは」何かについて探求した上で，教育と福祉の中にある連携の重要性について考える。 （オムニバス方式／全12回） （25 田岡　昌大／6回） 人間の生／生活，社会／国家という観点から教育＝福祉の必要性を考えることによって，教育と福祉の接点を考える。 （1 戸松　玲子／6回） 福祉とはなにかについて講義し，福祉領域における教育的観点の重要性について考える。 （1 戸松　玲子・25 田岡　昌大／3回）（共同）	オムニバス方式・共同（一部）
	食と健康	本講義では，健康を維持するための行動力や自己判断，食生活の自己管理，食事指導ができる基礎知識を修得することを目標とする。 私たちは食物を摂取する（食べる）ことによって生命を維持し，活動するために必要なエネルギーやいろいろな栄養素を得ている。しかし，どのような食物選択や食生活を営むかは，生きる時代の環境や個人の考え方などによって左右される。そして，その結果生じる栄養状態の変化は健康に影響を与える。また，現在の日本は，生活習慣病や，健康への関心がますます高まっている。時代とともに変遷してきた食生活の変化と疾病構造の変化などを通して，「食べること」の意味を科学の視点で理解し，考える。	
	日本語Ⅰ	本講義では，卒業し社会人として活躍するために必要な言葉の知識・表現技能を身につける【知識・技能】とともに，場面や状況に応じて，日本語を用いた的確な判断・適切な表現をすることができる【思考・判断・表現】，日本語の学修に主体的かつ協働的に取り組むことができる【主体性・協働性】ことを目標とする。母国語としての日本語の運用能力を高めるため，「読む，書く，聴く，話す」活動の実践を中心に展開する。授業回により，グループに分かれる。また，全体授業の一部ではクラウド型のeラーニング教材も活用する。	共同
	日本語Ⅱ	日本語Ⅰで得たもののスキルアップのため，自らの感性をより一層豊かにし，表現力を身に付け，人に正しく気持ちを伝える方法を学ぶことを目的とする。授業の内容としては，さまざまな視点から日本語に関するプレゼンテーションができる人になれるような機会を作る。毎時間の確認ドリルを通した，日本語の学習を継続的に進めながら，「振り返り」「気づき」を成果として残す。子どもに関わる仕事に就く時，その場に応じた表現力が発揮でき，日本語の持つ素晴らしさを子どもたちに伝えることができることを目標とする。授業形態は講義だが，演習形式も含む。	
	実用書道	書写を通して，文字に興味を持ち，正しい筆順の大切さ，気宇の大きさなどを学習し，技術向上，思考力を育成すると共に，日本伝統文化の書道に親しむ事で集中力，豊かな感性を養う。基礎学習で文字を正確に美しく書き，美意識を深める。また，書に興味をもつ事で，書く楽しみを育み，技術向上や表現力の向上を目指す。努力して練習し，継続する事で，確実に向上，成果，さらには個性を生かす書写力の向上を感じとる。	
	生物学	本講義では，将来の子ども教育に際し，生命の面白さを子どもに伝えられるよう，基礎教養を身につけることを目的とする。 「生命の進化」と「生命の基本原理である遺伝子の働き」の二点を理解することを大目標とし，①この地球にどんなに多彩な生き物が生息しているか，②これらの生き物や人類はどのように進化してきたのか，③遺伝子の働きとは何か，④現代病は人類の進化とどのように関連するのか，といった興味深いテーマを重点的に扱う。	

基礎教育科目	地球環境論	人類は，地球環境の制約の下に，環境に適応しながら生きてきた。人々が日々の生活で便利で豊かな社会を求め，大量生産，大量消費を続けているうちに，人間の生存に影響を与えるほどの深刻な地球規模の環境破壊を引き起こすに至った。 本講義では，地球を取り巻く大気環境，および地球の構造，さらに環境の変遷に伴う生物・人類進化に至るまで，環境を自然科学の立場から総合的に考える力を身に付けることを目標とする。 生物から見た環境要素との関係，地球環境の歴史的変化と生物との関係，エコロジーとは何か，などについても触れ，本講義を通じて地形・気候・土壌・植生などの自然環境諸要素の多様性・法則性・相互関連性を理解し，また人間活動と自然環境との相互関係について理解を深めると同時に，近年の環境諸問題をトピックスとして取り上げる。	
	統計学	本講義では，人間行動の理解，教育，心理学研究などに必要な統計学の基礎を身につけることを目的とする。データの収集および分析・処理の基礎的方法を，実際のデータによる演習も交えて解説する。 データの数量化，統計表とグラフ，相関と連関などの記述統計，母集団と標本，統計的仮説検定などの推測統計の基礎的事項を扱う。基礎的統計の知識に基づいてデータを主体的に読み取り考察することができ，適切な方法を自ら選択してデータを分析することができるようになることをめざす。	
	心理学	本講義では，本来の心理学の姿に迫り，客観的科学の一分野として成長してきた心理学について，今までどのようなことが研究され，わかってきたのかを学ぶことを目的とする。「心理学」という言葉は一般に広く知られるようになったが，ではその内容についてはどうかというと誤解が多く，巷では性格占いや読心術と同義で使われることも多い。講義を通して，本来の心理学の姿を学ぶとともに，私たちの身近な疑問をどのように科学的に考えることができるのかといった論理的な思考を鍛えることも目的とする。	
	コミュニケーション論	本講義では，コミュニケーションの多様性およびコミュニケーションに関わる要因についての理解をめざし，情報の送り手・受け手としてのあり方に配慮できるようになることを目的とする。そのために，まずコミュニケーションのチャネルの多様性について概観し，コミュニケーションの基礎となる人間の情報処理についての基礎事項を解説する。そのうえで，言語の役割，非言語コミュニケーション，情緒の表出，説得的コミュニケーションなどのコミュニケーションの諸側面について解説する。加えて，近年大きく変貌を遂げているメディアとコミュニケーションとの関わりについて考察し， 教育・保育の場でのコミュニケーションに生かすことを目指す。	
	プレゼンテーション概論	プレゼンテーションという人間の行為(働きかけ)について総合的に学ぶ。理論的整理をしながら現代の子どもやその周辺にある課題に的確に対処できる人材に必要なプレゼンテーション技術・能力について考え，学んでいく授業である。講義を中心にすすめるが，ほぼ毎回映像資料を視聴し，プレゼンテーションの実際場面や理論のレクチャー映像をもとにまとめたりコメントしたりといった活動を取り入れた授業となる。手作りの資料（デジタル資料と紙資料）を適宜配布・提示しながら理論的整理をすすめる。若干の演習的学びを多くの回に入れ込み，実践をベースに認識を深めていけるよう内容を構成する。	
	プレゼンテーション演習	プレゼンテーションという人間の行為(働きかけ)について総合的に学ぶ「プレゼンテーション概論」をふまえ，実践的なプレゼンテーション能力の向上を目指して演習をすすめる。保育者や教育者にとって必要なプレゼンテーション技術を身につけていく授業となる。 各回のテーマを明示したうえで，受講者のプレゼンテーションの準備と実践を中心に行う。主なテーマは「挨拶」「紹介」「説明」「説得」「行動喚起」「セレモニー」などである。受講者の発表実践活動の結果をフィードバックしながらすすめる。若干の演習的学びを多くの回に入れ込み，実践をベースに認識を深めていけるよう内容を構成する。	
	キャリアデザイン	大学で学修するための基礎的な力量形成を図るとともに，大学での学びを自らの「キャリア」と結びつけ，自分らしい生き方についての認識を深めることを目的とする。小グループに分かれてのゼミナール形式にて実施する。文献や資料の講読，ディスカッション等を通じて，「聴く」「読む」「書く」「まとめる」「発表する」などのスキルを高め，同時に「働くこと」「学ぶこと」と「自分らしく生きること」を結びつけることを目指す。これらの学びを通して，目指す専門職像を明確にし，大学での学修の見通しを学生一人一人が持てるようにする。	共同

基礎教育科目	ボランティア論	保育・教育に関連するボランティア活動について知り，参加することを通して，「自分とボランティア」を考えることを目的とする。 ボランティア，ボランティア活動の重要性について認識し，実践する人が増えている。しかし，改めて「ボランティアとは何か？」と問われると説明できないことも多い。本講義では，前半でボランティアの歴史的変遷や基本的な意味を知る。そして，実際にボランティア活動をしている人やNPOで活動している人の想いや活動内容を聞き取り，保育・教育に関連するボランティア活動に参加して，学びを深める。	
	伝統文化に学ぶ	本講義では，本学の「建学の精神」にて繰り返し謳う重要項目「わが国の文化と伝統を理解し，感性と知性を磨いた教養人を育成する」ことを目的とする。内容としては，まず日本の歴史と文化の流れを概観する。そして年中行事や祭礼，それに伴う伝統料理・菓子などの食文化，更に日本固有の芸道について学ぶ。特に茶道・書道・華道・落語に関しては専門家を特別講師として招き，入門講座を開講する。 また，付属の大阪青山歴史文学博物館も活用し，所蔵の国宝「土左日記」を始め，重要文化財等の美術品を実地に鑑賞しつつ学び，豊かな情操と教養を身につける。	
	多文化共生論	海外からの移民を積極的に受け入れていない日本でも，既に多様な背景を持つ人々が100人に2人の割合で暮らしている。これらマイノリティの人々を包摂し，文化や言語的背景が異なる人同士が互いを尊重し合いながら生きていくにはどうすればよいのであろうか。本講義では，こうした人々の渡日経過を辿りながら，時にワークショップをしたり，ゲストスピーカーを招いたりして，多文化共生をめぐるさまざまな社会課題に焦点を当てていく。また，社会に蔓延しつつあるゼノフォビア（外国人嫌悪）の実態に迫りつつ，多様性が尊重される社会の在り方についてともに考えていく場とする。	
	学修基礎演習	大学での学修および卒業後の学びの基礎となるスキル（アカデミックスキル）の習得を目的とする。本授業では演習形式で，特に「読む」「書く」のスキルのトレーニングを中心的に行う。内容としては，学術的な文章の読み方や，レポートや論文の書き方について，その考え方を学ぶと共に，それらの実践的なトレーニングを行う。また，これらを通じて大学での学修を巨視的に位置付け直すことによって，大学で学ぶための基本的な態度の形成を図る。	共同
	日本国憲法	本講義では，日本国憲法の基本理念の理解と具体的内容を習得することを目的とする。 憲法は，国の最高法規であるとともに日々の生活に深く関わりのある法律である。その基本理念は，国民主権，基本的人権の尊重，恒久平和主義を内容とする。授業の前半では，人権に関する問題(自由権としての子どもの人権，外国人の人権，男女平等，教育権等)を判例を通じて学習し，新しい権利として，環境権やプライバシー権についても考える。後半では，日本国憲法の今日的課題である憲法改正や地方分権について学ぶ。	
	情報処理	情報システムを活用する技能は，現代人の基本的な技能であり，中でもインターネットの利用と電子メールを含めた文書処理(ワードプロセッシング)は，もっとも基本的な技能といえる。そこで，講義中にも実際にシステムを利用することで，大阪青山教育情報ネットワーク(OAENS)について知り，情報システムのしくみを理解するとともに，その活用方法の基礎を学ぶ。これにより，大阪青山教育情報ネットワーク(OAENS)を利用できる，メールシステムを利用できる，検索システムやネットワークドライブなどのネットワークツールを利用できる，情報セキュリティに配慮することができる，ネットワーク上で適切にふるまうことができる，簡単な文書作成を行える，各種文書ファイルを取り扱える，などを学修の達成目標とする。	
	情報リテラシーⅠ	「情報」は情報システムを介することでさまざまな姿を見せるが，それを明らかにするためには情報システム活用の基本的技能を身につけなければならない。また，調査データの集計や授業教材作成などにコンピュータパワーを利用する場面も多数ある。本講義では，情報システム活用の基本的技能，特にOfficeアプリケーションの活用方法について実際の操作を通して修得し，実務におけるコンピュータパワー利用の基礎を学ぶ。これにより，Office製品の基本的な操作が行える，パソコンを用いたプレゼンテーション資料作成が行える，表計算ソフトを専門分野での学修に利用できる，データベースの仕組みやソフトウェアでの利用方法を理解している，などを学修の到達目標とする。	

基礎教育科目	情報リテラシーⅡ	現代の情報化社会では，「情報」は「コンテンツ」という形に仕立てられ，「メディア」によって提供される。本講義では，専門分野に必要な統計解析を取り上げ，コンピュータを利用して，データの単なる集まりからコンテンツの重要な要素となる意味のある分析結果を引き出す方法の基礎を学ぶ。これにより，メディアリテラシーを持って事実に基づいた情報の判断ができる，統計処理の基本的事項を理解している，Microsoft Excelを利用してデータの統計的処理が行える，SPSSを利用した簡単な統計処理が行える，などを学修の到達目標とする。	
	基礎英語Ⅰ	本授業では，演習形式で，基礎的な英語の総合的運用能力の養成を目的に，平易な英語で書かれた異文化理解および自文化理解に基づく随筆を教材とし，文法事項の確認，読解力とリスニング力の向上を図る。世界の様々な国や地域の文化的側面を学び，自文化を見つめ直し，幼児児童の保育者・教育者を養成する学部のポリシーを踏まえ，国際的視野を広げることを目指す。ペアワークやグループワークにも時間をさく。毎回の授業は，基礎学力テストの結果に基づき，習熟度別に３つのグループに分けて行う。	共同
	基礎英語Ⅱ	「基礎英語 Ⅰ」の学習内容を踏まえて，引き続き平易な英語で書かれた異文化理解・自文化理解に基づく随筆を教材とし，異文化理解および自文化理解を深めるために，その道具としての英語のスキルアップと英語を用いた情報収集および情報発信の能力養成を目指す。演習形式による読解力とリスニング力の向上に加えて，ライティングとプレゼンテーションにも時間を割く。また上級年で開講される児童英語教育者育成のための科目へのステップとして，専門分野における英語表現力の習得も視野に入れて進める。「基礎英語Ⅰ」の成績に基づき，習熟度別に３つのグループを編成して行う。	共同
	体育講義	本講義では，自身の健康観や運動の重要性に気づき日常の実践活動に生かすことや，体育・スポーツの特性の基本的理解や子どもの発育発達の基礎を理解することを主な目標とする。体育・スポーツの意義や価値にふれた上で，自分自身の体力の現状を知るとともに，生涯にわたって健康を維持・増進し，健康で文化的な，人間らしい生活を営むための基礎的な事柄を中心に講義する。特に，体育授業の意義や生活習慣病改善のための運動，児童期の健康などについて取りあげる。	共同
	体育実技	自身の健康観や運動の重要性に気づき日常の実践活動に生かすことができ，体育授業の進め方の基礎や初等教科教育法(体育)，保育内容(健康)につながる基礎的内容を理解することを主な目標とする。 授業では，体力測定によって自分自身の体力の現状を知るとともに，小学校学習指導要領，幼稚園教育指導要領，保育指針等の内容に沿って，実技を進める。主にチームプレイを中心とした球技系の内容を扱う。	共同
専門基礎科目	健康子ども学基礎ゼミナール	ゼミナール形式で行う。学校，保育所・幼稚園，児童福祉施設における教育ないし保育に関して基礎的な内容を理解することを目的とする。その為，各学校園や各施設に関する諸課題について議論を行い，教育・保育ならびに教育者・保育者のあり方について考えることを通して，教育及び保育に関する基礎教養の形成を図る。	共同
	健康子ども学Ⅰ	近年の子育て・子育ちを巡る環境は決して万全なものとは言い難い。本講義においては“子どもは未来である”という観点から，子どもに関する様々な学問的体系を元に，子どもの健やかさについて考える。具体的には，子ども観に関する歴史的変遷や社会現象（例えば，児童虐待やいじめ，ゲーム依存症の背景にあるものなど）を小児科学の領域からアプローチし，子どもの心身の健康発達・保障について捉える。これらのことから，子どもの体と心の繋がりについて考え，専門的な子ども理解を深めていく。	
	健康子ども学Ⅱ	本講義では，「健康子ども学Ⅰ」での学びを基に，「子どもをどのように捉えるか」「子どもに関する問題をどう解決するか」という視点から，近年の子ども研究における知見を参考にしながら，子どもを学際的に理解する。なかでも，子どもの生物学的特性と環境（もの・ひと・こと）との間で生ずるストレスが子どもの生育にどのような影響を与えるのかについて学び，そこから，学問と保育・教育現場の実践知の結びつきについて考える。	

専門基礎科目	子どもの健康と生活	本講義では，子どもの心身の健やかさは，生活によって支えられているという観点から，子どもの生活を支える各領域の専門家をゲストスピーカーとして招き，講演の内容をもとに個別及びグループでの討議を行う。講演の大きなテーマは「子どもと福祉」「子どもと保育」「子どもと幼児教育」「子どもと学校」「子どもと保護者支援」とし，それぞれの講演の翌週にグループワークにて振り返りを行い，これらをまとめ，報告会を行う。教員はグループワークおよび報告会のファシリテーターを務める。	共同
	教育原理	本講義では，教育および教育学に関する基礎的な知識の習得と，それらを応用して教育について考えるための基礎的素養の形成を目的とする。 内容としては，教育の歴史，理念ならびに思想，教育に関係する諸理論を扱う。また，教育に関わる子ども，人間，社会に関する近接領域の内容も重ねて扱う。これらによって，教育を内在的かつ外在的に考えるための基礎的な知見を形成すると共に，実践の基礎となる理念の理解を目指す。	
	保育原理	本講義では，保育を行う中で必要な基本的理念および知識を修得すること，今日の就学前保育施設の役割等の理解を深めることを目的とする。子ども理解を深めることと同時に，保育思想の歴史的変遷や我が国の保育制度の改訂や諸外国の保育制度及び，保育の現状と課題を学ぶ。学びを通して，さまざまな視点から保育を考えて自分なりの保育観をもち，保育者として課題解決に向かう姿勢や保育ニーズに対応する力を培うことができるようにする。	
	教育心理学	本講義では，前期の「保育の心理学」における学びの延長として，乳幼児期・児童期・青年期の発達特徴および，発達に影響する内的外的要因について学ぶ。また，学習に関する理論の基礎および，主体的学習を支える動機づけ・集団作り・学習評価の在り方についても学ぶ。これらの発達と学習に関する基礎的理解に基づき，保育者・教育者が子どもの発達および学習過程の特徴を理解することの意義を検討する。そのうえで，これらの学びを保育・教育現場にどのように応用するのかを考える。そのため，個や集団に応じた指導や援助の仕方を実際の具体的な場面を例に挙げ，関連づけて検討する。	
	保育の心理学	本講義では，一生涯に渡る発達過程の中で，特に子どもの発達に焦点をあて，その発達の諸特徴を見ていく。また，発達過程の変化を捉える軸として，心理学研究において見い出されてきた複数の発達理論を紹介し，そこからなぜ保育者・教育者になるために子どもの発達を学ぶ必要があるのかを講義する。さらに，保育と子どもの学びとの関連についても紹介する。科目のねらいは，子どもの発達に沿った保育・教育支援のための基礎（土台）作りであり，授業を通して，発達に関する基本的な専門用語を理解し，以降の学びにつなげていくことも目的としている。	
	子どもの人権	虐待，いじめ，不登校，体罰など，子どもをめぐる最近の事例を「子どもの権利条約」などから吟味，考察することを通して，「子どもの人権」についての認識を深める。さらに，部落問題をはじめとするさまざまな人権問題にふれながら，自他の人権を守ろうとする意識・意欲態度を育てる人権教育の在り方について，一部演習やディスカッションなどを取り入れて講義する。次の４点を目標とする。①子どもの人権に関わる基本的な知識を深めること　②自他の価値を尊重しようとする意志や態度を身につけること　③他者の痛みや感情を共感的に受容したり，自分の思いを穏やかに表現したりする技能を身につけること　④身につけた知識や態度，技能を実践の場で活かそうとする意志をもつこと。	
	子ども文化論	文化とは何かについての講義をもとにして，子どもにとっての文化はどのような意味を持つのかを明らかにする。その上で，子どもの権利条約第31条を取り上げ，文化への権利を①休憩・余暇　②遊び・レクレーション　③文化的生活・芸術への参加などの観点から考察する。遊びについては，ホイジンガ―やロジェ・カイヨワの遊び論にも言及する。そして，遊びと教室の文化活動としての係活動・行事等に焦点を当てて実践的な学習を展開する。	

専門基礎科目		子ども社会論	本講義では，自明と思われる「子ども」という概念がどのようなものなのかについて問い直し，子どもにかかわる社会的な課題や子ども社会における文化的特徴をとりあげ理解を深めていく。そうした学習を通じて，子どもの発達過程と社会に関わる基礎的知識の習得を目指す。社会がどのように変わろうとも，子どもの発達の基本的な過程は変わらない。子どもは誕生とともにさまざまな社会に所属し，そうした社会が保有している文化，すなわち，ものの見方や考え方，また行動の仕方や規範などの影響を受け，それらを内面化することによって，社会の構成員となる。このように，子どもの人間形成過程，すなわち彼らの成長・発達の過程は，たえず社会とともにあることを学ぶ。	
		子どもと英語Ⅰ	小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識や技術を身に付けることを目的とする。具体的には，演習形式で，小学校で英語を教えるにあたり必要な，聞く力，話す力（発表・やりとり），読む力，書く力をつける。また，小学校英語の教授法や歌や絵本の扱い方について知り，基礎的事項を実践できるようになることを目指す。さらに，国際理解教育と英語について知ることも目的とする。	
		子どもと英語Ⅱ	多言語・多文化の社会における英語の果たす役割について再考し，異文化理解の観点から児童英語教育の意義について考え，小学校における英語教育の現状と問題点を分析する能力の形成を目的とする。「子どもと英語 Ⅰ」で学習した理論に基づき，目的に応じた教材教具を創案し，学習者のコミュニケーション能力を伸ばす方法の体験的な習得をめざすために，指導案の作成と指導案に基づく模擬授業を中心に進める。	
		基礎音楽Ⅰ	音楽の基礎教育として楽典（楽譜を読み書きするための基礎理論）を教授する。楽譜に書いてある音符や休符・拍子・音程・リズム・調性などの仕組みや，楽譜と鍵盤上の音の位置関係の学修を通して，基礎的な読譜力を身につけることを目的とする。また，楽曲の速度や強弱，奏法などを表す音楽記号・用語についても学修する他，子どもの歌を正しい音程とリズムで歌うことができるようになるためのソルフェージュ演習を行う。	
		基礎音楽Ⅱ	「基礎音楽Ⅰ」に引き続き，楽典（音楽の基礎理論）について教授する他，子どもが使う簡易楽器（打楽器）やミュージックベルなどの扱い方について解説する。楽典では，和音や音階，コードネームの基礎を学び，コードによる子どもの歌の伴奏付け及び移調奏ができるようになることを目的とする。簡易楽器（打楽器）などの演習では，楽器の成り立ちや仕組み・奏法の基礎を学修し，各種楽器の特徴を知ることを目的とする。	
		器楽Ⅰ	ピアノに関する基礎知識・技術を教授する。本学ピアノグレード制に基づき，ピアノ初学者と既習者の２グループに分けて演習を行う。初学者グループでは，楽譜に書いてあることを正しく読む力（読譜力），及びピアノを弾く上で必要な基礎技術の修得を目的とする。既習者グループでは，マーチなどのリズム曲を修得する他，個々の進度に応じたグレード別課題曲（バイエルやブルクミュラー等）の学修を通して，ピアノ演奏・表現技術の向上を図る。	共同
		造形	初等教育における図画工作，および幼児の造形活動の指導のための基礎力を養うことを目指す。内容としては，子どもの造形活動で用いられる代表的な題材や描画材・表現素材，技法についての講義とその後に実施する作品制作を通しての経験的な学びにより，実践のための基礎力の形成を図る。	
専門教育科目	こころとからだの健康	健康心理学	健康に影響する様々な要因について，健康心理学の分野において得られた知見を一部演習形式も取り入れながら講義する。子ども達の心の健康への配慮と同時に，対人関係職で問題となりやすい心理的なストレスへの対処法を学ぶことで，受講者自らが将来社会に出た時に心身の健康を積極的に実現できる力を習得することも目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （4 髙木　典子／8回） 健康心理学の基礎について，発達段階・学習・性格と健康の関連について，講義をする。その上で，これらの健康心理学における知見が教育現場においてどのように活かされているのか，健康教育について概説する。 （3 佐藤　琢志／7回） 健康と関連する諸要因について学ぶ。対人関係とストレス，ストレスコーピング，ソーシャルスキルといった個人の対処方法と，ソーシャルサポートを始めとする公助・共助について講義をする。また，健康心理カウンセリングの基本的な理論についても実践的に学ぶ。	オムニバス方式

専門教育科目	こころとからだの健康	子ども家庭支援の心理学	本講義では，1年次の「保育の心理学」や「教育心理学」における学びをベースとして，生涯発達という視点から，発達の諸特徴や発達課題，初期経験の重要性について学ぶ。また，子どもの発達における家庭の意義や機能について学び，親子関係が発達に及ぼす影響や家族という単位での発達について考える。さらに，子育て家庭のおかれている社会的現状や課題，それによって子どもたちに起きている心の問題などを知ることで，子どもとその家庭を包括的に捉えた支援を考える視点を養成することを目的とする。	
		児童心理学	本講義では，児童期の心身の発達特徴や個人差について，心理学的知見をもとに詳しく学ぶことで，子どもの心の発達をふまえた教育を展開できる基礎力を修得することを目的とする。発達過程の中でも特に児童期に焦点をあて，児童期の６年間を小学校１・２年，３・４年，５・６年生の3つの時期に分け，それぞれの時期においてどのような心理的変化を経験し，どのような問題を乗り越えていくのかを概観していく。また，ピアジェの認知発達理論に加えて，ヴィゴツキーの発達の最近接領域やブルーナーの促成的レディネス観についても扱う。	
		カウンセリング演習	カウンセリングの意義や歴史的展開，基本的な知識や態度等，カウンセリングに関する専門的知見や技術を習得し，心理カウンセリングの視点からこころの理解を深めることを目的とする。内容としては，相談場面の各過程を取り上げ，傾聴技法の実習や，事例検討を行うことによって，保育・教育現場でのカウンセリングのあり方について理解を深める。特にロールプレイやグループワーク等の演習を多面的に組み入れ，心の中で感じたことを言語化することの意義について認識を深め，カウンセリングの体験的理解を図る。	
		教育相談	学修目標は，以下の3点である。学校教育における教育相談の重要性を認識し教育相談の方法や教育相談の実際について説明することができる，「学校における」教師の相談のあり方として，基本的なカウンセリングの技法を使用することができる，様々な子どもの問題行動について教師としてどのように対応するべきか見通しを立てることができるである。 内容としては，不登校やいじめ，非行など，今日の子ども，保護者，教師を取り巻く環境・問題を考察しながら，子どもを正しく理解し，問題を抱えた子どもにどのように指導・援助していけばよいのか臨床心理学の知見をふまえ，幅広く学んでいくことができるように講義する。また，基本的なカウンセリングの知識や技術を指導するとともに，教師が行う「学校における」カウンセリングのあり方，及び，校内や地域，関係機関との連携について理解を深め，その基本的な態度を身につけ，教育現場で活用できる力を養うように，ロールプレイ等演習形式も取り入れながら講義する。	
		臨床教育学	目標は，臨床教育学の考え方と視点について説明できることと，教育実践上の臨床的諸問題について論じることができることである。内容としては，臨床教育学という学際的な視点に立って，課題を抱える子どもや保護者そして教師に対する支援方法等について講義する。具体的には，教師が行う教育相談や，発達障がい・非行・いじめ・不登校などの教育実践上の臨床的諸問題について事例を通して講義を行う。	
		臨床保育学	目標は，臨床保育学の考え方と視点について説明できることと，保育実践上の臨床的諸問題について論じることができることである。内容としては，臨床保育学という学際的な視点に立って，課題を抱える子どもや保護者そして保育者に対する支援方法等について学ぶ。具体的には，保育者から見て気になる子どもや発達障がいのある子どもへの支援方法等について事例を通して，保育実践上の臨床的諸問題について学ぶ。	
		子ども理解の理論と方法	保育者は，乳幼児の心身の健康な成長・発達の過程についての理解に基づき，日々の保育実践を積み重ねていかねばならない。本科目においては，この理解を深めるために，医学・心理学・教育学における子どもの成長・発達のアセスメント方法について学ぶとともに，保育現場での具体的な観察法・観察の論点について話し合いながら，子どもへの具体的支援方法について演習形式で学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （1 戸松　玲子／10回） 保育現場での評価の意味について講義し，実践事例における子ども理解の理論と方法について討議する。 （4 髙木　典子／5回） 子どもの心理発達に関する具体的なアセスメント法やその解釈について，講義を交えた演習を行う。	オムニバス方式

専門教育科目	こころとからだの健康	食育論	人が生きる上で最も重要とされるのは，心身ともに健康で，意欲的に生きる力を身に付けていることである。特に，成長期にある子どもは，その基礎作りのための大切な時期にいる。この基礎を作るうえで，重要なものが食育である。そこで本講義では，食育について学ぶとともに，食についての現代の課題を知り，その原因や解決方法を探ることを目的とする。内容としては，食を中心に，子どもを取り巻く環境や家庭生活の様子などの社会の変化に伴う生活様式の変化や，生活リズムの急激な変化が子どもに及ぼす影響について，具体的な事例をもとに検証し，指導者になったときに生かす解決方法を探る。	
		子どもの保健	保育者として子どもを養育するための健康に関する基礎知識と子どもによくある症状，疾病の理解を目的とする。人体の生理機能の基礎知識を学びながら乳幼児期の発育の特徴を成人と比較しながら解説する。さらに，乳幼児に多くみられる症状や疾病，感染症を具体的に解説していく。また，健康観察の重要性について身体的（発育，疾病など），精神的（いじめ，発育問題など），社会的（虐待，ネグレクトなど）健康の観点から解説し，保育者としての適切な対応，支援について講義する。	
		子どもの健康と安全	保育での経過観察，応急処置などの基本的対応を押さえたうえ，感染症，アレルギーなどの衛生管理，遊具施設などの環境管理，不審者などへの危機管理，地震等に対する災害対策など安全への組織的な取組みを理解する。 （オムニバス方式／全15回） （30 石川　明美／10回） 保育現場での健康観察やアレルギー，疾病等への対応について，実習形式の演習を行う。 （12 柴山　浩一／5回） 保育現場での安全管理や災害時などへの危機管理組織作りなど，講義を交えた演習を行う。	オムニバス方式
		子どもの食と栄養	子どもの栄養と食生活は，生涯にわたる健康の基礎が形成され，その後の心と身体の健康に与える影響は大きい。この授業では，妊娠期（胎児期），乳児期，幼児期，学童・思春期を対象として各段階に応じた子どもの健全な発育・発達を促すために必要な栄養と食生活に関する知識を学び，将来の健康および食生活との関係を理解する。また，家庭や児童福祉施設における食生活の現状や課題についても学び，食育の基本と実践，特別な配慮を必要とする子どもへの対応等を，講義と実習・演習を通して身につける。	
	子どもの福祉	社会福祉	本講義では，社会福祉の歴史や理念，法制度を学ぶことにより，福祉社会の実現に向けた担い手としての理解を深めることを目的とする。 社会福祉とは，広く人びとの幸せな社会生活を支援する考え方や具体的な方法，およびそれらを実現するさまざまな施策の総称であり，実践で求められる諸領域（児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉など）の基礎的知識を学び，保育士に必要な力を養うことを目指す。内容としては，現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点，制度や実施体系，相談援助，利用者の保護に関わる仕組みについて具体的に理解する。	
		子ども家庭福祉	本講義では，現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷，子ども家庭福祉と保育，子ども家庭福祉の制度と実施体系について学習し，子ども家庭福祉の現状を把握し，その課題について理解を深めることを目的とする。内容としては，現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷，子どもの人権擁護，児童の権利に関する条約，児童福祉施設，子ども家庭福祉の専門職，少子化と地域子育て支援，母子保健と子どもの健全育成，子ども虐待・ＤＶ（ドメスティックバイオレンス）とその少年非行等への対応，貧困家庭，外国籍の子どもとその家庭への対応等について，講義する。	
		子ども家庭支援論	本講義では，現代の社会のさまざまな形で家庭支援・子育て支援の取り組みを知り，家庭支援を行っていくために現代における家庭の状況を把握し，子育て関連の政策の動向を理解することを目的とする。内容としては，保育所・幼稚園・地域子育て支援センターなど，子育て支援の具体的な取り組みから，家庭支援・子育て支援の方法，家庭支援・子育て支援の政策の歴史的変遷，子ども家庭支援の意義と役割，保育士による子ども家庭支援の意義と基本，多様な支援の展開と関係機関との連携について，具体的に理解する。	

専門教育科目	子どもの福祉	乳児保育Ⅰ	乳児保育の意義・目的や個々の発達に応じた保育などの基本的な知識・技能の習得を目的とする。内容としては，乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例をもとに，一部演習形式（個別及びグループワーク）も取り入れながら，講義する。これらによって，現代における乳児保育の社会的意義を知り，保育士の役割を理解するとともに，乳児期の子どもの発達の道筋を学び，それに応じた保育士の適切な対応や援助方法について理解することを目指す。	
		乳児保育Ⅱ	乳児保育Ⅰにて習得した知識・技術に基づき，乳児保育における具体的な配慮や計画について実践的に理解することを目的とする。内容としては，3歳未満児の発育・発達の過程や特性並びに，養護及び教育の一体性を踏まえた援助や配慮，関わりの基本的な考え方について理解することを目指し，グループワークや模擬保育といった実践形式を取り入れた演習を行う。また，それらを通して，3歳未満児の生活や遊びと保育の方法及び環境を踏まえた指導計画の作成について理解することを目指す。	
		特別支援教育入門	特別支援教育の制度・歴史・教育内容・教育方法の全般について解説し，特別支援教育の基本的な枠組みと現状，そして理論的・実践的な課題を講義する。学びを通して受講生は，特別支援教育の対象を理解し，発達障害を含めた特別なニーズのある子どもについて理解できるようになる。また，特別なニーズ教育の世界的動向・日本の特別支援教育の展開・障害児の進路指導・保護者や関係機関との連携について入門的な知識を修得することができる。そして，特別支援教育に関する関心・意欲・態度を身に着けることができる。	
		特別支援実践論	目標は，以下の3点である。すなわち，障がいのある子どもの支援の歴史や障がいについて正しい考えを述べることができる，様々な障がいのある子どもについての実態と支援について説明ができる，教育者または保育者として関係機関との連携，保護者支援等の現状と課題について説明ができる，である。内容としては，特別支援教育並びに障害児保育等について演習等を交えて授業を展開する。具体的には，障がいのある子どもを支える理念，各障がいの理解と支援，及び家庭や各機関との連携について説明する。	
		社会的養護Ⅰ	我が国における社会的養護は，第二次世界大戦終戦直後までの孤児・遺棄児を中心とした養育（生活・自律）支援から，被虐待児を中心とした家族のある子どもの養育（発達・自律）支援へと歴史的変貌を遂げた。その背景には，子ども・子育ての家庭的問題が複雑・多様化し続けている現状があり，課題も山積である。本講義では，社会的養護の歴史的変遷から現代社会における子ども・子育て問題を紐解いていき，一人ひとりの子どもが独立した人格をもつ一人の人間として育ちゆく過程を理解する。	
		社会的養護Ⅱ	施設養育及び家庭養育の実際について，近年の動向を踏まえ教授するとともにVTR等も用いて理解を深める。また子ども虐待防止と地域の子育て支援の重要性についても事例等を活用し，演習形式で考えていく。更にそれぞれの内容を通じて相談援助の方法や技術の向上に努める。具体的には，社会的養育の現状を理解し，それに関わる関係機関の在り方について思案し，社会的養育の担い手として働く保育士の役割や専門性を理解する。これらを通して，社会的養育を必要とする子どもたちの心情に寄り添い，実際に支援するにはどうあるべきか，様々な視点で考え，議論できるようになる。	
		子育て支援	本科目では，保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談，助言，情報提供，行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について，その特性と展開を具体的に理解し，保育士の行う子育て支援について，様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を，実践事例等を通して具体的に理解することを目的とする。 内容としては，保育士の行う子育て支援の特性として，子どもの保育とともに行う保護者の支援，日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成，保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解，子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供について理解し，保育士の行う子育て支援とその内容・方法・技術を習得する。	

専門教育科目	子どもの福祉	社会福祉行政論	社会福祉の基本理念は保護から自立支援へと転換し，措置方式から契約方式へと改められた。①児童福祉分野ではすべての子どもの良質な生育環境を保護し，子ども・子育て家庭を社会全体で支援するようになり，②高齢者福祉では，医療・介護の一体的改革を目指しており，③障害者福祉分野では障害者総合支援法の成立(2012年)や障害者差別解消法の制定(2013年)，④低所得者分野では，生活困窮者の増加とニーズの変化を受け，生活保護法改正と生活困窮者自立支援法制定(2013年)など，社会福祉法制度の改正が相次いでいる。 社会福祉行政の制度の中で，特に認定こども園・保育所・児童相談所などを含む児童福祉行政を中心に，高齢者(介護保険・老人福祉)，障害者福祉，低所得者(生活保護等)，地域包括ケアについて，本講義を通して学ぶことを目的とする。	
		子どもと虐待	児童虐待の現状や要因，対応の方法，子どもや保護者の心理などについて，最新の動向を踏まえ，事例を取り上げながら講義する。ディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ，グループで課題を共有しながら，現場で求められる対応について主体的に学ぶ。また，対人援助職のメンタルヘルスに関するセルフチェックを行いながら，受講生の自己理解を深める。さらに，虐待によって心身に深刻なダメージを受けたり，死亡する子どもが後を絶たない現代社会において，日常的に子どもと関わる教師や保育士に求められる知識，具体的な対応のあり方について解説する。	
	教育及び保育の内容・方法	保育カリキュラム論	現在，乳幼児期の教育とケア（ECEC）が生涯学習の基礎となり，将来的に社会に恩恵をもたらすことが言われている。一方でそれはECECの質の高さを条件としていることも同時に述べられている。このようなことから，子どもが保育において身に付けることが望まれる資質・能力を踏まえて保育を作り上げてくことが保育者には求められる。そこで，この講義では幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえた保育のカリキュラムに関する基礎的事項を学び，具体的な保育計画と評価の結びつきについて学ぶ。	
		保育者論	保育者（保育士ならびに幼稚園教諭）は自らを振り返りながら実践していく専門職であり，保育者とはいったいどのような者なのか，と常に問い続けることが必須となる。本講義では，保育者とはどのような存在であるかについて，保育者に求められる専門性，価値観，態度，また保育者集団のあり方について学ぶ。内容としては，現代社会における保育の重要性の高まりを背景に，保育者，保育士ならびに幼稚園教諭の意義・役割・資質能力・職務内容等について身に付け，保育士ならびに幼稚園教諭への意欲を高め，さらに適性を判断し，進路選択に資する保育士ならびに幼稚園教諭の在り方を理解する。	
		子どもと健康	この授業では，幼児期の健康で安全な生活についての基礎的知識を修得し，現代の子どもの生活や環境における課題について理解を深める。また，運動発達の特性や基本的生活習慣を形成する意義について理解し，幼児期の健康に資する保育のあり方について考える。さらに知識をふまえて活発な身体活動をともなう遊びの指導や健康指導を立案し，その展開を実践・体験する。これら一連の演習によって，幼児期の健康・安全に関する知識と現代的課題を理解できるようになることを目指す。	
		子どもと人間関係	本講義では，乳幼児期における人とかかわる力を育てていくための基本的な知識・技能を学ぶことを通して，領域「人間関係」のねらいと内容について理解することを目的とする。内容としては，乳幼児期の遊びや活動を通して，教材研究を行う。また，教材研究やグループワークによって習得した知識・技術をもとに保育所等でのフィールドワークを行う。それらを通して，保育における実践力の基礎を身につけるとともに，子どもの発達や人とかかわる力について体験的に理解することを目指す。	
		子どもと環境	本講義では，幼稚園教育や保育所保育における領域「環境」を中心に，その意義，ねらい，内容，指導計画の考え方などを解説するとともに，具体的な教育・保育の指導計画や実践記録・考察の事例をあげる。また，保育のための指導技術においては実際の保育に役立つ教材や内容を解説する。これらの内容は幼稚園教諭養成・保育士養成という立場から，領域「環境」を理論的，実践的に理解することを目指す。	

専門教育科目	教育及び保育の内容・方法	子どもと言葉	領域「言葉」のねらいと内容を理解し，乳幼児期の言葉の発達過程や乳幼児の豊かな言葉を育む保育を行うための知識や技術，保育者としての基本姿勢，遊びとしての環境構成のあり方，保育展開の方法などを学ぶ。具体的には，乳幼児期の言葉の発達過程を理解し，保育実践につなげ，領域「言葉」のねらいと内容をふまえた保育指導案作成や保育展開の方法を理解し，指導案作成ができるようになることを目的としている。これらの演習を通して，乳幼児の豊かな言葉を育むための児童文化財・遊びに関する知識を習得し，言葉に対する感性を豊かの者にすることのできる保育実践力の獲得につなげていく。	
		子どもと音楽表現	幼児の音楽表現活動を自らの体験活動を通して総合的に理解する。「身体あそびと音楽」では，リズムや音の強弱，音色等，音楽の諸要素に合わせた身体表現活動を行う。「ことばと音楽」では，言葉のリズムやオノマトペ，絵本の言葉に合わせた音づくりを行う。「音さがし」では，様々な音素材に関心を持ち，身の回りの音さがしを行う。様々な音楽あそびについて知り，これらの音楽あそびを通して，表現力や実践力を高める。 さらに，音楽あそびだけでなく，造形あそびと融合した活動を通して，表現力の幅を広げ，幼稚園や保育の現場で即戦力となる実践力を高める。オリジナルの作品をグループで作り，エプロンシアターやペープサート，紙芝居等に仕上げていく。グループごとに出来上がった作品の発表を行い，相互で交流し，自分たちの表現について振り返る。	
		保育内容総論	保育は小学校上の教科カリキュラムとは違い，一人一人の生活や経験を重視するというような経験カリキュラムで行われている。そこでまず，保育の場における保育及び教育の基本や保育の目標について再確認し，それらと育みたい資質・能力，幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と保育の内容の関連や各視点や保育内容の繋がりについて知る中で保育全体の構造を学ぶ。さらに上記のことを踏まえて模擬保育を考案し，具体的な保育課程の在り方や多様な保育展開について考え，保育実践の素地を培う。	
		保育内容･健康	この授業では，要領・指針で述べられている生きる力の基礎を培うために，子どもたちの心と体の健康をどのように援助していくことが保育者にとって必要であるかについて，主として演習形式で学ぶ。内容としては，乳幼児から児童期までの発育発達の過程，基本的習慣の獲得過程や獲得における援助方法，家庭との連携，幼児の終わりまでに育ってほしい10の姿の評価方法などである。これらによって，子どもが主体的，意欲的に行動できる指導方法を理解できるようになることを目指す。	
		保育内容･人間関係Ⅰ	領域「人間関係」のねらい及び内容や，子どもを取り巻く人間関係における現代的課題といった基本的事項について学ぶことを目的とする。そのために，集団生活における子ども同士の育ちあいについて記載された実践記録及び人間関係の発達に関するテキストをもとに，乳幼児期の人間関係の発達や集団づくりのあり方について考え，理解することを目指す。また，それらを通して，人とかかわる力を育てる保育内容・方法を理解することを目指す。	
		保育内容･人間関係Ⅱ	「保育内容・人間関係Ⅰ」にて習得した知識に基づき，乳幼児期の人間関係における保育のねらいを達成するための実践方法を理解し，具体的な保育方法を考え，発展させていく力を身につけることを目的とする。そのため，グループワークや模擬保育等の方法を通して，計画・実践・省察を繰り返し行いながら，実践的に学んでいくこととする。それらによって，子どもの具体的な姿・育ちを記述し，解釈する力を身につけること，加えて，子どもの具体的な姿・育ちに即した保育実践を計画・実施するための保育方法を理解することを目指す。	
		保育内容･環境Ⅰ	幼稚園教育要領や保育所保育指針の領域「環境」について，乳幼児期の環境とのかかわりの実際とそれに伴う発達の諸側面の特質をふまえ，保育における環境との豊かなかかわりを育むための保育内容と具体的な指導を理解する。子どもの環境との関わりについて仮の幼稚園を想定して環境デザインを考察し，グループ毎によりよい環境のあり方を論じ，具体的に探っていくという「アクティブラーニング」形式の授業によって，活動デザインや指導計画立案の知識や能力の形成を図る。	

専門教育科目	教育及び保育の内容・方法	保育内容･環境Ⅱ	幼稚園教育要領や保育所保育指針の領域「環境」について，「保育内容・環境Ⅰ」の内容を踏まえ，保育における活動デザインの構築をより実践的に学ぶために，多様な学修形態や内容によって幼児との豊かなかかわりを育むための保育内容と実際の指導法を理解する。 「保育内容・環境Ⅰ」についての理解をもとに，子どもの環境との関わりについて実際の活動を体験した後，グループ毎によりよい環境のあり方を論じて探っていくという「アクティブ・ディープラーニング」の授業をオーディエンスレスポンスシステム（ARS)等のICT教育によって，授業設計の知識や能力の形成を図る。	
		保育内容･言葉	保育における「言葉」について理解を深め，子どもが言葉を豊かに育めるよう，保育者としての関わり方や支援方法について，演習を通して考える。 本授業の到達目標は，①保育内容「言葉」について理解すること，②子どもの言葉を育む保育方法について学び，実際の保育場面を想定し，製作・発表できるの２つである。具体的には，教科書に沿って，保育内容「言葉」と何か，子どもの発達と言葉はどのように関連しているのか，言葉の発達を促す援助をどう考えるかといった内容を学ぶ。	
		保育内容･音楽表現Ⅰ	幼稚園教育要領・保育所保育指針のねらい，及び内容（表現）を考察した上で，弾き歌い・簡易楽器の演奏法・音遊びや歌遊びなどの音楽表現方法の基礎について教授する。保育現場における音楽表現活動に必要な知識や技術を修得する他，模擬保育を通して，音楽を用いた保育実践の基礎を修得することを目的とする。 わらべうたや季節の歌，歌遊びなどの演習を行う他，簡易楽器の使用法・演奏法について学修する。模擬保育（歌遊びや音遊びを中心に）では，少人数グループに分かれ，指導案の作成から模擬保育後の討論・振り返りまで行う。また，子どもの歌の弾き歌い演習を行い，歌唱とピアノパートの表現バランスについて学修する。	共同
		保育内容･音楽表現Ⅱ	子どもの歌の歌唱・歌詞表現や簡易楽器による器楽合奏・リズム表現・楽器遊びなどについて，発展的な表現方法を教授する他，模擬保育演習を行う。応用を含めた音楽表現技術を修得すると共に，音楽を使用した模擬保育を通して，保育実践力の育成を図る。 子どもの歌の曲想に適した歌唱・歌詞表現を学修する他，器楽合奏演習を行う。リズム遊びや楽器遊びについては，即興表現を含めた演習を行う。模擬保育（楽器遊びを中心に）では，少人数グループに分かれ，指導案の作成から模擬保育後の討論・振り返りまで行う。また，子どもの歌の弾き歌い演習を行い，複数の課題曲を学修し，レパートリーを広げる。	共同
		保育内容･身体表現	領域「表現」についての理解を深め，子どもの感性を育む保育を展開する能力を身につけることを目的とする。内容としては，身体表現の実践を通して表現する楽しさを体験し，子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因，子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能，表現力を習得する。 学修到達目標は，以下の6つである。①領域「表現」の意義や目的を理解し，保育の構想につなぐことができる。②領域「表現」における身体活動に関する表現技法を総合的に理解し，指導することができる。③発達段階に応じた領域「表現」に関する，身体活動の指導案を作成することができる。④集団の遊びにより得られるコミュニケーション能力を理解し育む指導力を身につける。⑤生活の経験や遊びを通して豊かな感性と想像力を育む保育力を習得する。⑥領域「表現」に関する保育現場の実践例をもとに，課題を見つけ解決策を提案することができる。	
		保育内容･造形表現Ⅰ	実際に造形表現活動に親しみ，楽しさを体感することを通して，楽しい造形表現活動の指導法を実践的・具体的に学ぶ。内容としては，造形表現活動を体感する中で，造形教育の意義を理解するとともに，指導者として必要な基礎的造形能力を身につけ，造形活動で扱う素材・用具の特性を理解し，効果的に使えるようにする。これらを通して，子どもの造形活動を支援・指導する方法を習得し，積極的に子どもを支援・指導する意欲を持つことを目標とする。	
		保育内容･造形表現Ⅱ	「保育内容・造形表現Ⅰ」での学びを基本としながら，実際に造形表現活動に親しみ，楽しさを体感することを通して，楽しい造形表現活動の指導法を実践的・具体的に学ぶ実技授業である。さまざまな表現活動を体験することで，教材開発力，応用力を養っていくことを意図している。学習到達目標としては，造形表現活動を体感する中で，造形教育の意義を理解するとともに，指導者として必要な基礎的造形能力を身につけ，造形活動で扱う素材・用具の特性を理解し，効果的に使えるようにする。また，子どもの造形活動を支援・指導する方法を習得し，積極的に子どもを支援・指導する意欲を持つことである。	

専門教育科目	教育及び保育の内容・方法	声楽Ⅰ	歌唱実技では，発声の基礎（腹式呼吸・姿勢・口形・表情など）を教授する歌唱実技（独唱）と，音楽の三要素のひとつであるハーモニーの解説を含めた歌唱実技(重唱）に分けて，授業を展開する。本演習科目では，正しい発声法の修得を目的とする他，季節の歌・行事の歌・重唱の学修を通して，正確な音程で歌う力と歌詞を明瞭に発音できる力を養い，保育や教職の現場において役立つ豊かな歌唱表現力を身につけることを目的とする。	
		声楽Ⅱ	「声楽Ⅰ」で学修した発声法に基づき，保育・教職現場において役立つ歌唱力を高めるための方法について教授する。①芸術歌曲を学修する独唱実技，②劇音楽における歌唱を学修する重唱実技，③ハーモニーの応用を含めた合唱実技，の3項目に分けて授業を展開する。合唱実技では，ダイナミクスや言葉の発音・音色の工夫，歌詞表現の工夫についてハーモニーの応用という観点から解説する。声量豊かに正しい音程で歌う力と，歌詞を明瞭に発音できる力を身につける他，重唱・合唱などにおいて，他の声部をよく聴き，味わいながらアンサンブルができる力を身につけることを目的とする。	
		器楽Ⅱ	「器楽Ⅰ」に引き続き，ピアノを弾く上で欠かすことのできない基礎技術・知識を教授する。正確なリズムと運指法（指番号の進め方）を学び，楽譜に書いてある音楽記号・用語（速度や曲想など）を的確に演奏・表現できる技術の修得を目的とする。また，楽曲表現技術の修得に効果的な練習方法についても考察する。保育現場で使用されるリズム課題曲学修の他，本学グレード制に基づいた課題曲を，個々の進度に応じて教授する。	共同
		器楽Ⅲ	保育現場で欠かせないリズム曲を学修するML週と，弾き歌い曲及び本学グレード別課題曲を，個々の進度に応じて学修するピアノ週に分けて演習を行う。ML週では，複数のリズム課題曲演習を通してレパートリーを増やし，ピアノ週では，基礎的な表現・演奏技術の確立を図り，表現の応用へとつなげる。また，リズム曲・弾き歌い曲・グレード別課題曲といった多くの曲に取り組むことにより，楽譜を速く正確に読み取る力を修得することも目的とする。	共同
		器楽Ⅳ	本授業では，学修成果を発表するために学内演奏会（期末実施）を行う。発表形式は，独奏や弾き歌いの他，合奏・連弾などの各種アンサンブルとなる。公開演奏に向けて，発表曲の曲想表現・練習方法・技術上の課題を研究する。楽曲に対して多角的にアプローチすることにより，基礎及び応用された表現・演奏技術の確立を図る。また，学内演奏会に向けての取り組みの他に，複数の弾き歌い曲及びグレード別課題曲の演習を行い，楽曲理解に基づく多様な表現技術の修得を目的とする。	共同
		子どもの音楽総合Ⅰ	子どもに音楽の楽しさを伝えるための方法について教授する。子どもの歌や器楽合奏などの音楽表現活動において必要とされる技術や知識を多面的に学び，応用を含めた実践力を高めることを目的とする。また，ピアノ演習では基礎技能の修得を踏まえた上で，子どもの歌やグレード別課題曲における発展的な表現技術について教授する。 （オムニバス方式／全15回） （5 永井　正幸／8回） 子どもの歌の教材研究を行う他，子どもの歌で使用されるコードネーム演習（応用を含む）や楽典の学修を行う。また器楽合奏では，楽器編成による響きの違いを考察，楽曲表現に適した合奏演習を行う。 （5 永井　正幸・27 青谷　理子・35 辛島　則子・41 小林　里佳・42 阪口　章子・46 中川　美穂／7回）（共同） ピアノ演習では，グレード別課題曲の学修の他，教材研究曲として選定した子どもの歌の伴奏パートを豊かに表現する方法について学ぶ。	オムニバス方式・共同（一部）
		子どもの音楽総合Ⅱ	「子どもの音楽総合Ⅰ」に引き続き，音楽を通して子どもの心を豊かにするための表現・技術を，音楽劇を中心とした表現活動及びピアノ演習を通して教授する。音楽と演劇の組み合わせ及びピアノ表現を多面的に学ぶことで，保育現場での実践に活用できる幅広い表現方法の修得を目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （9 桐山　由香／8回） 音楽劇では「歌唱・歌詞表現や合奏などの音楽表現」「演劇（言葉や身体表現）」「衣装や小道具などの製作」について学ぶ。 （5 永井　正幸・27 青谷　理子・35 辛島　則子・41 小林　里佳・42 阪口　章子・46 中川　美穂／7回）（共同） ピアノ演習では，本学グレード別課題曲以外の楽曲選択を可能とし，多様な楽曲形式・曲想表現について学修する。	オムニバス方式・共同（一部）

専門教育科目	教育及び保育の内容・方法	子ども体育Ⅰ	この授業では，幼児期の子どもにとっての運動遊びとは何か，また，運動遊びの指導はどのように進めていけばよいかなど，単に動きの指導や遊びを考える指導に留まらず，心身の発達を視野において保育活動の一環としての運動遊びの重要性を演習を通して考える。内容としては，年代別かけっこ，幼児向けのボール運動，身体活動量が期待できる伝承遊びやサーキットなどである。これらによって，各種運動能力を高め，子どもの補助ならびに援助の仕方を学び，指導力を身に付ける。	
		子ども体育Ⅱ	この授業では，「子ども体育Ⅰ」で学んだ内容をさらに深め，幼児期の子どもにとっての運動遊びとは何かを継続して学修する。また，ダイナミックな動きを引き出す遊びの展開を行うために運動遊びの指導はどのように進めていけばよいかなどを実践を通して理解する。内容としては，講師の模範保育のあとに学生が模擬保育を行い，グループディスカッションを重ねる。これらによって，安全面や発達段階や運動課題の難易度を配慮して，運動遊びを構成できるようになることを目指す。	
		教育課程論	児童の立場からみれば，学校で何を学ぶのか。何時間で学ぶのか。教師の立場からみれば，授業で何を教えればよいのか。何時間それを教えるのか。こうしたことにかかわるのが教育課程と呼ばれるものである。つまり，教える内容と時間を決めているものを総称して教育課程と呼ぶ。学校教育において教える内容と時間，つまり教育課程に関して広い知識と深い見識を持っていなくては，学校教育の担い手である教師としては十分とはいえない。このために，本授業科目では，教育課程の意味や内容（なかみ），その内容を編成する方法等に関する事項についての基礎的・理論的な理解を図っていく。各授業内容については，講義を中心に，授業中に発問及び討議を織り交ぜ，理解を深める。	
		教職論	本講義では，教職に関わる制度や職務内容，歴史の理解を通じて，具体的で現実的な教職観を得ることを目的とする。内容としては，教職を巡る社会的な認識（期待），歴史，法規・制度を扱う。また，教職の労働としての特殊性とその現況についても扱う。そして，これらを踏まえながら，現代における教職が求められる役割について扱う。また，以上の事柄について基礎的な知見を得ると共に，それを通じて自身の教職観を問い直し，目指す教職観を具体的かつ現実的に考える。	
		社会	本講義では，小学校社会科の目標，内容について理解することを目的とする。内容としては，社会科が誕生した経緯や，社会科の変遷について講義をする。『学習指導要領解説社会編』の解説を通して，中学年，高学年の目標や主な内容について理解を図れるようにする。また，理解したことを生かし，社会科授業づくりにおける教材研究の方法を習得することも目的とする。授業は，単なる解説ではなく，学生自身の主体的な学びを重視し，グループ活動によるディスカッションも適宜取り入れる。また，社会科に関する情報活用能力の育成を図るため，予習や復習等にICTを活用する。	
		算数	本講義では，小学校算数の教科目標と内容について，具体的な指導内容や指導方法の実際を視野に入れながら，その理解を図る。特に，算数科の4領域（Ａ数と計算，Ｂ図形，Ｃ測定・変化と関係，Ｄデータの活用）それぞれにおける6年間の体系と指導上の留意点を中心的に学ぶ。併せて，小学校教育における算数教育の意義や位置づけについて，その歴史的変遷の理解を図ることも目的とする。授業では，演習形式も交えながら，児童の認識に沿った効果的な指導方法についても考える。	
		理科	小学校学習指導要領の理科の目標である「自然に親しみ，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うこと」の意味と「自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力の育成」のための授業設計についての知識や能力を実際の小学校の理科教育の観察・実験を通して身につけたい。 小学校理科教育の内容区分（エネルギー，粒子，生命，地球）の代表的な学習内容について，知識として目標と内容を学んだ後，数人のグループで実際の授業を想定し，観察・実験・考察といった子どもの探究学習を体験した後，グループ間でよりよい学習のあり方を論じて探っていくという「アクティブ・ラーニング」の形式の授業によって，授業設計の能力の形成を図る。	

専門教育科目	教育及び保育の内容・方法	生活	1989年（平成元年）に新設された1.2学年の教科である「生活」について，その目標や学習内容を理解し，小学校入学当初のスタートカリキュラム，また3学年以降の「総合的な学習の時間」や社会・理科への連続性も概観するとともに，生活科ができた背景や生活科がめざす「生きる力」の育成についても理解を図る。また，初等教科教育法「生活」につながるよう，具体的な授業展開も視野に入れた講義とする。	
		家庭	本講義では，初等科教育の家庭科の内容である，衣食住の生活，地域社会との関わり，食育，消費者教育に加え，現代社会の課題である持続可能な社会の構築等，様々な課題を学びの対象とする。初等科教育の家庭科では，このような幅広い内容を学び，理解したことを日常の生活に生かす力を養うことを狙いとしている。したがって，小学校の教師をめざすには，これらを理解して授業力を身に付けることが重要である。そのため，講義だけでなく，実習や体験も取り入れ，課題に応じてグループミーティングを行う。	
		初等教科教育法(国語)	小学校教員として国語を指導するうえで，必要な知識や技能を身につけるとともに，具体的な教材研究をとおして，国語科の教科の本質をふまえた教材研究と発問について理解し，授業記録の検討等をとおして，実際の授業のあり方について実践的に理解することを目的とする。 また、国語科、とりわけ文学、説明文についての教材研究の仕方について理解し、国語科の実際の指導の方法や技術（電子黒板を利用した板書の有効活用）を習得することを目標とする。	
		初等教科教育法(社会)	小学校社会科の目標，内容について理解することを目的とする。内容としては，社会科が誕生した経緯や，社会科の変遷について講義をする。『学習指導要領解説社会編』の解説を通して，中学年，高学年の目標や主な内容について理解を図れるようにする。また，理解したことを生かし，社会科授業づくりにおける教材研究の方法を習得することも目的とする。講義においては，社会科授業に関する情報活用能力の育成を図るため，ICTを活用する。また，各種の統計資料や新聞，視聴覚教材や教育機器などの教材，教具の適切な活用を図る。	
		初等教科教育法(算数)	小学校では，2020年度より新学習指導要領が全面実施される。本講義では，その趣旨及び算数科の目標や各学年のねらいを知り，子どもたちに必要とされる知識や技能の確かな指導，主体的・対話的で深い学びの指導ができる力を身に付ける。内容としては，各学年の具体的な学習内容に触れながら，教材教具・ワークシートづくり，発問の仕方，板書計画，評価などを学ぶ。また，指導案作成，模擬授業も行い，実践的な指導力を培う。	
		初等教科教育法(理科)	小学校学習指導要領の理科の目標である「自然に親しみ，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うこと」の意味と「自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力の育成」のための授業設計についての知識や能力と授業実践のための実践的な技能を小学校の理科の模擬授業を通して身につけたい。 本講義では，小学校理科教育の３年生から６年生の学習内容について，授業設計を行い，数人のグループで実際の授業を想定し，授業を構成する表現活動と体験活動の具体的な計画を行い，グループ間でよりよい学習のあり方を論じて探っていくという「アクティブ・ラーニング」の形式の授業によって，授業設計と授業実践の諸能力の形成を図る。	
		初等教科教育法(生活)	生活科は，1989年に改正された学習指導要領で小学校１．２年に新設された教科である。その目標は「具体的な活動や体験を通して，身近な生活に関わる見方・考え方を生かし自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成すること」とされている。 本講義では，教科「生活」での学修を基礎に，グループ討議を中心にし，生活科の9の内容について体験的な調査，研究，発表を行う。また，指導案の作成，模擬授業等を通して，単元の目標や授業内容，授業方法についても小学校低学年の特性を理解し，具体的に考える。さらに幼児教育との連続性の中での小学校教育への緩やかな接続の重要性についても理解する。	

専門教育科目	教育及び保育の内容・方法	初等教科教育法(音楽)	本講義では，小学校学習指導要領音楽科に示される，「表現及び鑑賞の活動を通して,音楽的な見方・考え方を働かせ,生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。」という目標や，その内容について解説する。目標に関しては，共通教材を中心に用いた実践例を通して，各学年目標の理解が深められるようにする。内容に関しては，「Ａ表現」では演奏を繰り返すことを通して表現の工夫ができる能力を身に付けることを目的とし，「Ｂ鑑賞」では演奏表現を味わいながら，楽曲の構造や特徴を理解できるようになることを目的とする。また，学習指導案作成を通して，子どもの姿を想定しながらより良い学習展開のあり方を考え，実践できる力を育成する。	
		初等教科教育法(図画工作)	小学校の図画工作科の内容と指導法について具体的な例に即しながら講義する。主体的な授業づくりができるための，心構え，授業案，留意点，スキルなどの基礎・基本を参加体験型学習を取り入れながら講義を通して，①小学校図画工作科の授業を指導するための基礎・基本となる知識と授業構成力を身につける，②図画工作科に対する興味・関心を高めることで，授業を主体的につくり上げる意欲を持つ，③図画工作科の評価の考え方を理解し，図画工作科の授業を通して，子どもの自己肯定感・自尊感情を育てていく意識を持つことを学習到達目標としている。	
		初等教科教育法(家庭)	家庭科は，日常生活に関心をもち，科学的に課題解決する教科である。本講義の主たる目的は以下の通りである。①他教科との関連を生かし，家庭生活に視点を当てる授業を構築する力をつける。②小学校の家庭科では，子どもたちが日常生活を見つめ，工夫して生活をよりよくしようとする態度や実践力を育てることをねらいとしている。講義では，理論と実践を結び，両面から具体的指導法を構想することができる力を養う。③小学校学習指導要領　家庭に明記されている，小学校家庭科の意義や目標について理解し，指導力を身につける。④家庭科指導における，ICT等を活用した学習を工夫する力をつける。	
		初等教科教育法(体育)	本講義では，体育科教育の目標や内容を学び，これを実際の授業事例と照らし合わせ追究しながら，将来，体育授業に携わる教員として必要となる基礎的実践力を培っていく。内容としては，低学年で育てたい運動技能と身体感覚，ボール運動の指導，器械運動の指導，陸上運動の指導や領域を指定された模擬授業である。これらによって，小学校学習指導要領解説（体育編）に示される各学年の目標および各運動領域の内容ならびに指導計画の作成と内容の取扱いについて理解できるようになることを目的とする。	
		初等教科教育法(英語)	本講義では，小・中・高等学校の英語教育の現状及び目的の理解に基づいて，英語授業の基本的な流れ，学習指導要領・教科書の構成，音声面の指導，語彙・文法の取り扱い方，リスニング・スピーキングの指導方法，コミュニケーション活動，ペアワーク・グループワークの運営法，学習者要因などの授業構成法・指導技術を学習し，使えるようにする。 学習到達目標は，１．学校教育の一環としての外国語（英語）の教育の目的論的・歴史的検討を踏まえて，小学校外国語教育についての基本的な知識・理解および第二言語習得についての知識・活用法を身につけること，２.授業観察・授業体験・コミュニケーション活動等の模擬授業を通じて，実践に必要な基本的な指導技術を鍛え，授業づくりに必要な知識・技術を養うことである。	
		道徳教育の指導	本講義では，道徳教育に関する基礎的な理論，歴史，思想を学ぶと共に，これらを用いて道徳科における学習指導の計画を立てることができる力量の形成を目的とする。内容としては，道徳教育に関する歴史・思想，道徳性の発達の理論などを扱う。また，受講者の道徳教育のイメージや経験を踏まえながら，「道徳とは何か？」「道徳は教えられるか？」といった諸論点について考えることも行う。そして，特別の教科道徳における学習指導要領を踏まえながら，学修指導案を作成する。	
		総合的な学習の時間の指導	本講義では，「総合的な学習の時間」の目的・内容・方法にわたる特徴理解とその指導力の形成を目的とする。内容としては，学習指導要領の変遷（1998年版～2017年版）において「総合的な学習の時間」がどう捉えられてきたかを明確にし，学校の教育課程編成におけるその果たす意義と役割ならびに「総合的な学習の時間」の年間指導計画・単元計画を講ずるとともに，実際の典型的な複数の実践展開例をグループ討議によって分析する。また，「総合的な学習の時間」における評価のあり方と方法を考察する。	

専門教育科目	教育及び保育の内容・方法	特別活動の指導	本講義では，特別活動の指導のあり方を考察していくため，社会的背景や教育政策との関連をふまえつつ，子どもたちが現実を切り開いていく力をつける特別活動の今日的課題を明らかにしていく。さらに，特別活動における具体的指導のあり方について，実践記録を共同で分析したり，ワークショップで体験的に学ぶことを通して，特別活動の指導原理の理論的・実践的な認識を深める。ICT機器やコミュニケーションカードも適宜活用する。	
		生徒･進路指導論	本講義では，学生の経験を出発点に生徒指導の現状認識を深める。そして，生徒指導の歴史を概観し，生徒指導の本質とは何かを明らかにする。また，生徒指導はどのように実践されてきたのかを実際の実践を読み合いながら，学力問題，身体問題，暴力，いじめ，不登校，学級崩壊など現代の生徒指導の諸問題に応える生徒指導の原則を追求する。併せて，生徒指導の課題とかかわらせながら進路指導についても論じる。	
		教育社会学	本授業では，さまざまな教育事象について教育社会学の視点から講義する。前半では，教育社会学が扱う主要なテーマを中心にマクロの視点から現代の学校教育に対する社会的な視点について学習を促す。中盤では，内外の教育改革・教育政策の動向や，そうした状況下にある教師や子ども達の変化を概観し，指導上の課題に対する理解へ導く。終盤では，家庭，地域と学校との連携や学校安全及び危機管理についてその意義や協働の仕方，取り組みについて最新の実践事例を紹介し，学生との議論を交えながら理解を促していく。	
		教育方法･技術論	本講義では，学生自身の経験に基づいて現代学校の課題を明らかにし，それに対応するための「授業」について議論に基づき学習指導案を作成する。さらに，考案した学習指導案を基に，メディアや情報機器を活用した教材と教授方法について考察する。 （8 植田　一夫・20 辰口　和保／2回）（共同） 授業の進め方のオリエンテーション（第1回）および全体のまとめ（第15回）。 （オムニバス方式／全13回） （8 植田　一夫／8回） 現代学校の授業に関わる課題を学生自身の経験などをもとに明らかにし，その課題に応えるために，どのような授業論を構築すればよいかを各教科の特質を生かして考察する。その理論をもとにして，学生それぞれが授業を構想し，模擬授業などを実施し検証する。 （20 辰口　和保／5回） 授業におけるメディア利用とプレゼンテーションを取り上げ，情報技術を利用した教育の方法について学ぶ。また，教育と著作権の関係について，およびe-Learningの実効性を高めるための「インストラクショナルデザイン」についても取り上げる。	オムニバス方式・共同（一部）
		児童文学	本講義では，子どものための文学を深く学ぶことで人としての感性を磨き，心を豊かにする。そして，保育者や教育者といった専門的職業人としての職域で生かせるように努めることを目的とする。授業の内容としては，児童文学とは何か，その歴史を踏まえ，表現方法や昔話に登場するキャラクターの変遷について考察し，文学の持つ力を探る。 半期間の授業を通して，“文学”を学ぶことの意味を考える。そして，豊かな心を磨き，将来保育者や教育者になったときに，何を幼い子ども達に伝えるべきか，自身の中で一つの回答が見出せることを目標とする。	
	実習・研究	保育実習ＩＡ	保育所または認定こども園（幼保連携型，保育所型）において，その機能や生活，保育士の役割等について実際の体験を通して学習することを目的とする。その為，保育に携わる中で，子どもの生活と保育士の援助や関わりについて観察する。そして，子どもの発達過程とその援助について子どもと関わる中で学び，子どもの発達過程に応じた保育内容や保育環境の実際について省察を行い日々保育に参加する。この一連の流れを通して，保育の計画，観察，記録および自己評価の実際について学ぶ。さらに，実習を通して専門職としての保育士の役割や職業倫理について具体的に理解することを目指す。	共同
		保育実習指導ＩＡ	本演習では，保育所実習に臨む心構えを学ぶとともに，保育実習における自己課題を省察すること，また，保育実習中の子どもとの生活を通し，子ども理解を深め，保育実践力の向上に努めることを目的とする。内容としては，保育実習（保育所）の意義・目的，実習内容及び，実習に関する手続きや配慮事項等を扱う。また，保育関連科目を通して習得した知識・技術をもとに，グループワークや指導案の作成を行う。それらによって，自らの実習課題の明確化を図るとともに，実際の実習に向けた計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解することを目指す。	共同

専門教育科目	実習・研究	保育実習ＩＢ	本科目では，習得した教科全体の知識，技能を基礎とし，これら総合的に実践する応用能力を養うため，児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。保育実習ＩＢでは保育所等以外の児童福祉施設等での実習を行う。乳幼児を対象に主に日中の保育を担う保育所等と異なり，児童福祉施設等での実習では施設種別の多様性を理解し，配属される施設の機能や多様な専門性をもつ職員の専門性などについて理解する。配属先の状況について理解を深めたうえで指導担当職員の指導のもとに実習を進めていく。	
		保育実習指導ＩＢ	本演習科目では，児童福祉施設実習に臨む心構えを学ぶとともに，施設実習における自己課題を見出す。また，施設実習中の子どもとの生活を通し，子ども理解を深め，児童養護実践力の向上を目的とする。 内容としては，保育実習の意義・目的を理解，実習の内容の理解と自らの課題の明確化，実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮，プライバシーの保護と守秘義務等の理解，実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容についての理解，実習の事後指導を通して，実習の総括と自己評価を行い，今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることについて学んでいく。	
		保育実習Ⅱ	保育所又は認定こども園（幼保連携型または保育所型）において，ある程度同一のクラスでの実習に参加する中で保育所の役割や機能について理解を深める。さらに，自身の子ども理解を深め，子どもとの関わりについて視点を明確にするために，PDCAサイクルを念頭に置き保育に携わるように努める。同時に，保育所における子ども保育者との関わりだけではなく保護者や地域との関わりを見る中で現在の保育所又は認定こども園（幼保連携型または保育所型）の現代における役割について考える。	
		保育実習指導Ⅱ	本演習では，保育実習ＩＡの経験を踏まえて，保育実習の意義や目的を再確認し，今までに履修した様々な実習や講義の内容，それらの関連性を踏まえ，保育実践力を高め保育所保育について総合的に考えることを目的とする。 PDCAサイクルを意識した保育の必要性を理解する為に保育実習を踏まえた子ども理解やそれに基づく具体的な指導計画の作成，実践及び省察を行う。また，実習の事後指導を通して，実習の自己評価とまとめを行い，今後の保育に対する自身の課題や認識を明確にする。また，保育士の働きは保育所に在籍している子どもや保護者と関わるだけではなく地域の子育て支援及び保護者支援も含まれることを知り，保育士の働き及び職務内容について考える時を持ち，現代における保育所の役割の理解を図る。	
		保育実習Ⅲ	本科目では，これまで習得した教科全体の知識，技能を基礎とし，これらを総合的に実践する応用能力を養うため，児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。 保育実習Ⅲでは保育所等以外の児童福祉施設等での実習を行う。保育実習ＩＢでの体験を基礎に，より高い専門性を身につける。乳幼児を対象に主に日中の保育を担う保育所等と異なり，児童福祉施設等での実習では施設種別の多様性を理解し，配属される施設の機能や多様な専門性をもつ職員の専門性などについて理解する。配属先の状況について理解を深めたうえで指導担当職員の指導のもとに実習を進めていく。	
		保育実習指導Ⅲ	本演習科目では，「保育実習ＩＢ」での経験を元に，実際の施設現場における子どもへの自立支援に関する直接・間接援助 について考えながら，保育者としての自己課題を見出すことを目的とする。 内容としては，保育実習の意義と目的を理解し，実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ保育の実践力を習得すること，保育の観察，記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について，実践や事例を通して理解すること，保育士の専門性と職業倫理について理解すること，実習の事後指導を通して，実習の総括と自己評価を行い，保育に対する課題や認識を明確にすることについて，学んでいく。	
		教育実習Ｉ	大阪青山大学付属青山幼稚園等で5日間の実習に参加する中で以下のことを行う。観察：教育の様々な営みを観察によって研究する。参加：観察をもとにして担任の補助的立場から少しずつ教育活動に入り，配当された仕事を中心に担任の指示を受けて行動する。また，これらのことを行う中で教育現場における教育の特質と子どもの実態・教育諸条件を理解し，教育内容やその方法を実地に学び，教育者としての自覚を持ち資質を高めるように努めることを目的とする。	

専門教育科目	実習・研究	教育実習Ⅱ	大学での学修や教育実習Ⅰの体験をもとに，幼稚園または小学校における実習を行い、「教育実践」の実際を学ぶ。保育者・教育者（実習生）として職務に携わることによって，保育者・教育者になるために必要な知識，技能，態度や心構え等について，体験的に理解を深め，保育者・教育者としての確かな実践力を修得する。 主たる目的は，以下の通りである。（1）幼稚園・学校とは何か，教師の職務とは何かについて理解する。（2）観察・体験を通して幼児または児童理解の方法や着眼点を理解する。（3）教師としての専門知識を深め，基本的な指導技術を身につける（4）教師を目指す者として，自己の課題や目標を明らかにする。（5）教師としての自覚や使命感を養う。	共同
		教育実習事前事後指導	実習先別にクラスを分けて授業を行い，教育実習に参加するにあたって必要な知識・態度を演習形式で学ぶ。また、実習を通して自身の子ども観・保育観・教育観について考える。 幼稚園実習の事前事後指導としては，学生が次の内容を考え身に付けることが出来るようにする。①実習生としてふさわしい態度を自覚する。②保育内容を総合的に理解し、保育実践と結びつける方法を考える。③教育実習Ⅰにおける自己の実習課題を考え実習に取り組めるようにする。④実習を通して保育者として働く上での課題を見つける。 小学校実習の事前事後指導としては，教科・領域等の内容や授業及び生活指導に焦点をあてて紹介し，教育実習への問題意識を高め，実習生としての自覚を培う。さらに，授業観察・授業実践の在り方，とりわけ教材研究，学習指導案の作成，授業展開の実際，学習評価の観点，児童とのコミュニケーションなど可能な限り実習内容に即した演習形式で指導を行う。実習前の直前指導，実習後の事後指導を適宜実施する。	共同
		教職実践演習(幼･小)	「学びの履歴」の集大成として，大学4年間で学んだ理論知や技術と，教育実習等で得られた実践知・技術を自己評価し，さらに身につけるべき知や技を明らかにしながら，それらの統合をはかり，以下の4観点と関連づけて幼稚園・小学校教員としての最低限の資質・能力を形成する。①使命感・責任感・教育的愛情，②社会性や対人関係調整能力，③幼児・児童への理解力と学級経営能力，④保育内容，及び教科内容の指導力・授業力。 授業（保育）は，事例研究，学校園訪問，グループワーク，模擬授業（保育）等の方法を活用し，実際の保育・教育現場を想定した課題を取扱い，教職生活をより円滑にスタートできるようにする。 （オムニバス方式／全15回） （14 服部　太／7回） 学習指導案の書き方，授業（保育）づくり，ICT機器の活用などについて実践的に学ぶ。 （12 柴山　浩一／8回） 学校（園）の危機管理と安全教育，学習指導案の書き方，子ども集団づくり，学級通信の書き方，教員の服務規律などについて，演習を取り入れながら学ぶ。	オムニバス方式
		教職実践演習(幼･保)	「学びの履歴」の集大成として，大学4年間で学んだ理論知や技術と教育実習などで得られた実践知・技術を自己評価し，さらに身に付けるべき知や技を明らかにしながら，それらの統合をはかり，以下の観点と関連付けて幼稚園教諭・保育教諭・保育士としての最低限の資質・能力を形成する。①使命感・責任感・教育的愛情，②社会性や対人関係調整能力，③幼児・児童への理解力と学級経営能力，④保育内容及び教科内容の指導力，実践力の４つである。 授業（保育）は事例研究，学校園訪問，グループワーク，模擬授業（保育），子育て支援の現場等の方法を活用し実際の保育・教育現場を想定した課題を取り扱い，教職員（保育者）生活をより円滑にスタートできるようにする。	共同
		地域子育て支援実習	現代社会における子ども・子育てに関する現状と課題についての理解を深め，保育・教育者として実践力を身につけることを目的とする。内容としては，①学内の子育て支援室，②箕面市内の各子育て支援室で実習する。これらの実習を通して，地域の子育て支援に関する社会的資源を理解し，個々に応じた子育て支援に関するケースワークについて考える。また，保育・教育現場における子どもの虐待問題や発達障害のある子どもと親への育児支援についても学ぶ。	

専門教育科目	実習・研究	健康子ども学専門ゼミナール	これまでの学びから生じた各自の問題意識に基づき，広く子どもに関するテーマで課題設定をした上で，研究活動を行う。子どもに関する既修の知識・技能を保育・教育実践へと応用する力を養うことを目的とする。 内容としては，これまでの学びから生じた問題意識を軸に研究テーマを設定し，担当教員の指導の下にゼミナール活動を行う。ゼミナール活動を通して，子どもに関する様々な事象を学問的に深く考え，調べ，自分の問題意識に関する一定の答えを自分なりに明らかにする。	共同
		卒業研究	各自の問題意識に基づき，子どもに関する課題設定をした上で，ゼミナール形式にて行う。また，ゼミナールを通じて研究方法論の指導，論文執筆のための指導を行う。内容については，3年次までの学修によって得られた子どもに関する基本的理解を元に，各自の問題意識にもとづき研究を行う。 学習到達目標は，①各自の問題意識に基づいてテーマを設定し，資料・文献を多面的に考察する，②論文作成のための研究方法を理解する，③論拠に基づいた論理的な文章を執筆できるようになる，④研究の成果を論文としてまとめ，発表することができるようになることである。	共同

（注）

1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。

2　専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が４０人を超えることを想定するものについては，その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。

3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。